

平成 28 年 5 月 20 日 (最終更新 H28.8.24)

国土交通省国土技術政策総合研究所

国立研究開発法人建築研究所

平成 28 年 (2016 年) 熊本地震による建築物等被害第八次調査報告 (上益城郡益城町における鉄骨造建築物の調査速報)

1. 調査の目的及び概要

国土交通省住宅局の要請を踏まえ、平成 28 年 (2016 年) 熊本地震による鉄骨造建築物の被害状況及び倒壊又は大破した鉄骨造建築物の被害要因を把握するため、4 月 14 日 (前震) と 16 日 (本震) の両方の地震で震度 7 を観測した益城町宮園観測点を中心に、鉄骨造建築物の被害調査を行った。本報告は 4 月 28~29 日に実施した被害調査のうち、主として倒壊又は大破した鉄骨造建築物についての調査結果をとりまとめた速報である。

2. 調査者

国土交通省国土技術政策総合研究所

建築研究部基準認証システム研究室 主任研究官 岩田善裕

国立研究開発法人建築研究所

建築生産研究グループ 主任研究員 石原直

構造研究グループ 研究員 三木徳人

3. 調査行程及び経路

平成 28 年 4 月 28 日 (木)

13:30 益城町着

益城町安永・宮園・木山・辻の城地区調査

19:00 調査終了

平成 28 年 4 月 29 日 (金)

10:30 益城町着

益城町安永・宮園・木山・寺迫地区調査

15:30 調査終了

図 3.1 に調査経路を示す。黄緑と水色の□印でそれぞれ 4 月 28 日と 4 月 29 日の調査経路を表している。図中の●印は強震観測点である益城町役場と KiK-net 益城を示す。

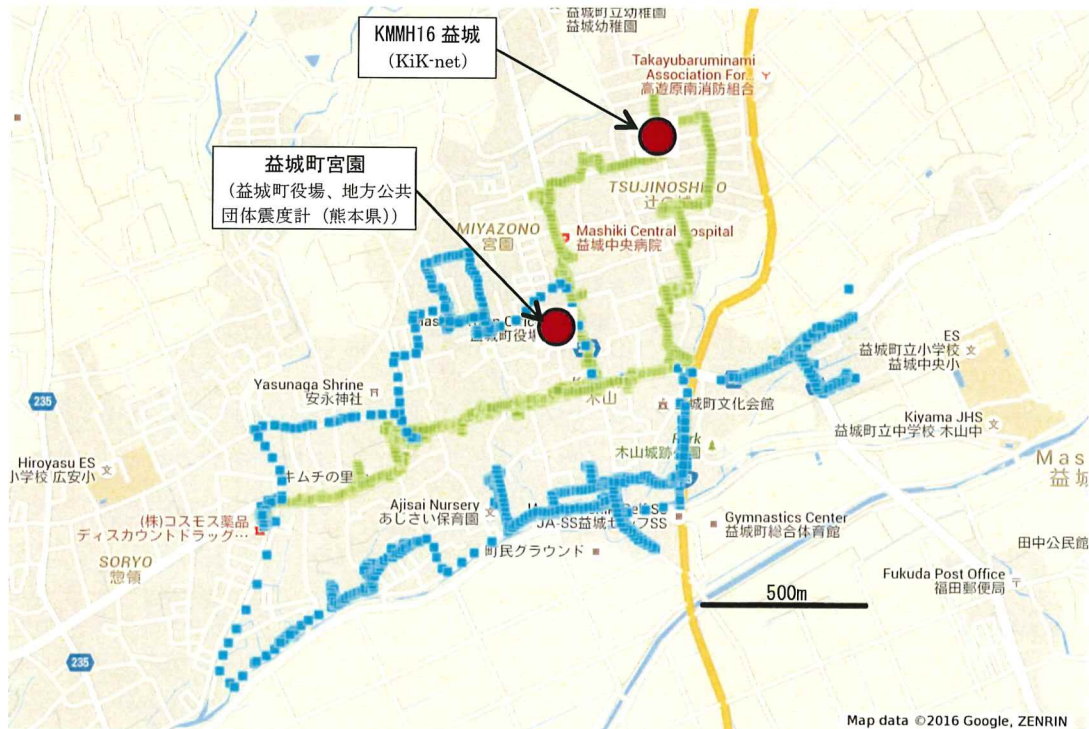


図 3.1 調査経路 (Google Map を利用)

4. 調査建築物と被害概要

4. 1 調査建築物

今回調査した鉄骨造建築物 96 棟の位置を図 4.1 に示す。図中の◎印は強震観測点である益城町役場と KiK-net 益城を示す。観測点近傍の地区と大きな被害が報告されている地区を中心に、事前に Google Map 及びストリートビュー並びに賃貸住宅の情報等を利用して候補を挙げた上で、調査後に鉄骨造と確定したものを調査建築物として示している。図中の黒色の■マークは倒壊又は大破と判断されたもの (判断の方法については、「4.2 被害の概要」参照) を示し、白色の□マークは構造躯体が無被害か、損傷があっても大破に該当しない比較的軽微なものを示す。

図 4.2 に調査建築物の内訳を示す。図 4.2(a)は階数を示したもので、1 階建 28 棟、2 階建 59 棟、3 階建 8 棟、4 階建 1 棟である。図 4.2(b)は用途で分類したもので、店舗・事務所等 34 棟、集合住宅 23 棟、戸建住宅 14 棟、店舗併用住宅 (集合住宅との併用を含む) 12 棟、倉庫 (車庫、工場を含む) 12 棟、駐車場 1 棟である。なお、調査建築物には、体育館は含まれていない。